

# 裏路地探険

山あいに佇む山名氏ゆかりの城下町  
うだつのあがった旧家や風情のある街道筋  
水路に込められたエコな町づくりに迫る

## ■城下町、村岡を歩く／香美町村岡区

七美五郷（七美、兎塚、射添、小代、熊次）の中心地として栄えた香美町村岡区村岡。寛永19年（1642）に、村岡藩の基礎を作った三代藩主・山名矩豊公が黒野村に陣屋（藩主の屋敷）を築き、地名を「村岡」に改めたとされる。

「城下町というより、宿場町の要素が強いですね」とは、案内役をお願いした古川哲男さん。城下町は本来、敵が攻めにくいように道路が鍵型に折り曲げられて造られている。

しかし、村岡は山陰街道の沿道にあたるため、人が往来しやすいように道路は広く、まっすぐ伸びる。今でも旧街道筋には、うだつ

のあがった古い町屋やレトロな店が佇む商店街が、その面影を残す。昔は旅館も数多くあったそう  
で、旅人が集う宿場だった。

街道筋らしいエピソードも残っている。江戸時代には雪が除雪しやすいうちに、街道の中央に水路が流れていたという。但馬でも有数の豪雪地帯ならではの工夫。夏場は打ち水をして、ほこりが舞うのを防いだそうだ。夜は打ち水の効果で、涼しく過ごせる。私たちが見習うべき、エコな町づくりが実践されていた。

厳浄寺の前に延びる道沿いの水路は、唯一、昔の姿を伝えるもの。水の音が響き渡り、家々には川いとや水路の水を引き込んだ池が作られている。

宿場町の雰囲気強い村岡の町だが、敵への防御を考えた城下町としての役割も考えられている。

町内は矢田川の支流である湯舟川と、そのさらに支流の昆陽川が外堀の役目を果たし、背後には蘇武岳を始めとする山々。安全が確保されており、数は少ないながらも要所には社寺を配置して、敵の侵入に備えている。町の両端にあたる出入口には、番人小屋を



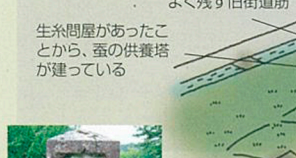
荒霊神社社殿の天井に描かれた絵は、南画家・橋本閑雪の師である片岡公胤（養父出身）作ではないかとされている。

香美町役場村岡支所

歴代山名藩主の保護が篤く、城中鎮護の氏神として崇められた「黒野神社」。釈迦十六善神像図や、鎌倉時代の作といわれる古面が残っている。



旧街道筋には、うだつのあがった旧家が今でも残っている。



昔の水路の面影をよく残す旧街道筋



生糸問屋があったことから、蚕の供養塔が建っている

木造3階建ての民家

山門に仁王の看板がある厳浄寺

鍵型の路地

明治時代、七美郷役所だった民俗資料館「まほろば」

城下町村岡のゲート

家老屋敷

旧山陰街道

法雲寺 山名蔵

陣屋が築かれていた御殿山 現在は公園として整備されている。

至鳥取

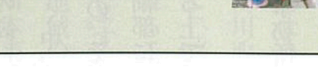
至蘇武トンネル 豊岡市

壺濱御廟

桜山御廟 11～13代藩主の墓所

至養父市

3～10代までの村岡藩主の墓が並ぶ壺濱御廟（つぼだにごひょう）。



殿町筋にある木造3階建ての古い民家。写真真ん中のレトロな看板が掲げられている。



(上) 現在も住んでおられる家老屋敷だった旧家。  
(右) かつての山陰街道。江戸時代には中央に水路が流れていた。



かつては生活用水として使われていた川いと。町内は水路が張り巡らされており、至る場所で見ることが出来る。



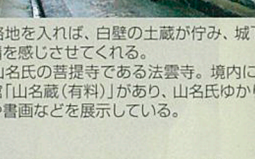
家々の隙間を縫うようにして走る水路。矢田川の支流、昆陽川の水を引き込んでいる。



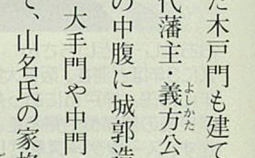
(上) 路地を入れれば、白壁の土蔵が並び、城下町の風情を感じさせてくれる。



(左) 山名氏の菩提寺である法雲寺。境内には、史料館「山名蔵（有料）」があり、山名氏ゆかりの武具や書画などを展示している。



(上) 村岡の魅力を語る案内役の古川哲男さん



(下) 黒野神社の宮司を務める中村典男さん

●裏路地探険隊員募集  
平成19年10月13日（土）  
「和田山駅周辺を歩く」朝来市和田山町  
\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

備えた木戸門も建てられていた。八代藩主・義方公の時代に、尾白山の中腹に城郭造りの陣屋を築き、大手門や中門、長屋などを設けて、山名氏の家格に応じた体裁を整えた。現在は御殿山公園として整備され、緑に包まれた遊歩道は絶好の散策コース。  
町の南側、山名氏の菩提寺である法雲寺には、陳雪橋の悲運の話が伝えられている。日本名を西村俊三郎という雪橋は、先祖が明国（中国）の人で、幕末に長崎で通訳として活躍していた。  
しかし、師である砲術家・高島秋帆の罪に連座して、村岡藩に預かりの身となり、許されることなく、安政5年（1858）、当地で永眠した。雪橋はとらわれの身であったが、見張りの番士に敬われていたという。今でも法雲寺の裏手には墓が残り、墓標からは手厚く葬られたことが伺い知れる。  
古来より宿場として栄え、旅人を迎えてきた村岡の町。小藩ながらも知恵をしぼって作られた城下町は、現代の私たちにとても参考にするべき点が多い。何気なく配された水路や建物が、そと町づくりの原点を教えてくれる。